

なごやぬいぐるみ病院 勉強会

文責：名古屋大学 医学部 1年 野田茉友子

概要

実施日時：2011年2月12日（日）

実施場所：名古屋大学鶴舞キャンパスゼミ室 302号室

参加者(敬称略)：大羽輝、唐澤ゆうき、澤田知洋、柴田淳平、社本穂俊、園田なおみ、竹内優都、戸川記衣、中川夕紀子、永田浩貴、野田茉友子、畑下直、前田萌奈実、松井響子、三浦あや菜(15名)

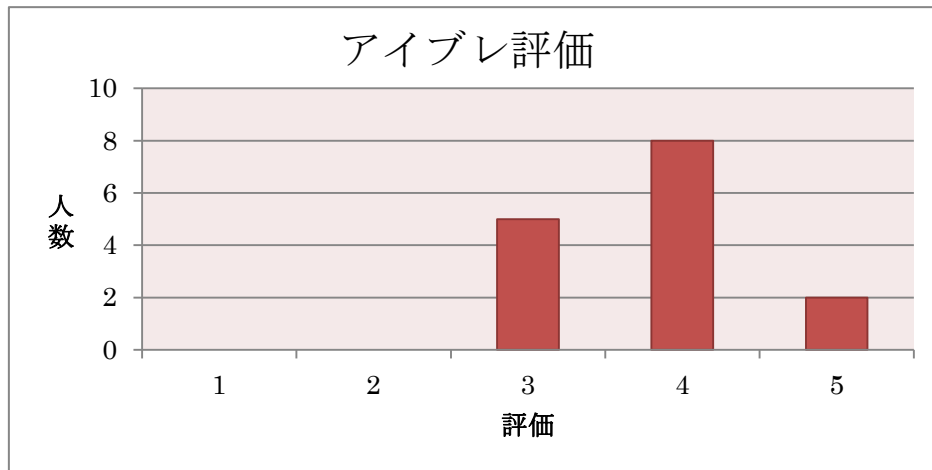
発表者：野田茉友子、唐澤ゆうき、畑下直、戸川記衣、松井響子

当日の流れ

10:20~10:40(20分)	Ice breaking
10:40~10:55(15分)	大府の小児医療センターについて
10:55~11:15(20分)	静岡のこども病院
11:15~11:25(10分)	休憩
11:25~12:25(60分)	まとめ

内容

【Ice breaking】(担当：戸川、松井)



<方法>

- ①参加者に、偏愛マップという自分の好きなものに関するマインドマップを書いてもらう。
- ②隣同士でお互いの偏愛マップを見せ合って話をする。
- ③その後、グループ内で見せ合って話をする。

<よかった点>

- ・楽しかった。盛り上がった。思ったよりたくさん書けた。
- ・内容面白い！
- ・ある程度知っている人に対してのアイブレとしては適切だった。

<企画者たちの反省>

- ・みんながマインドマップについて知っていたことに安心して、マインドマップの書き方の説明がいい加減になってしまった。
- ・時間がなかった。

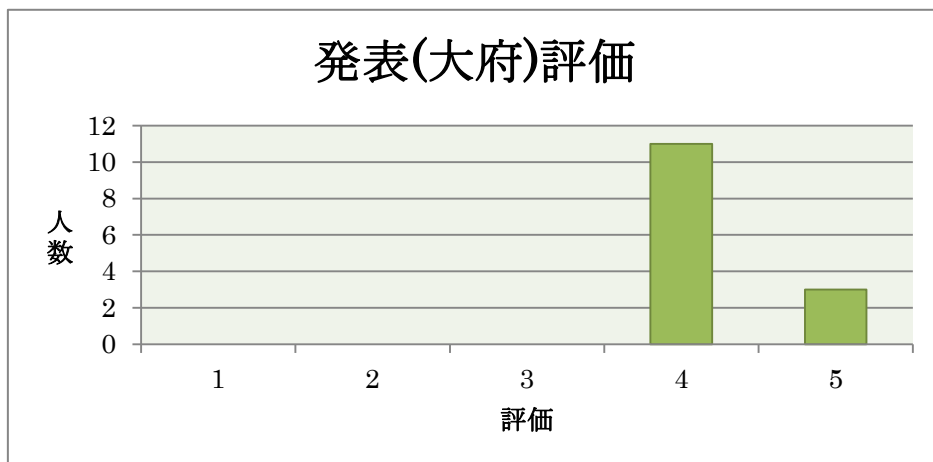
<アンケートのご意見> (改善点抜粋)

- ・全体に時間が足りない、もう少し短時間でパパッとできたほうがよい。
 - グループ内で共有する時間がなかった。
 - 書く時間が少ない。
 - ↳好きなことが書ききれなかった、好きなことがすぐに出て来なかった。
- ・最初一人で考えるのがとっかかりにくい部分がある。書き慣れてない人はフォローするといいい。
- ・他人と関わる機会を作ると良いかも。
 - 顔見知りが多かったからよいが、初対面だとブレイクできないのでは？
- ・もっとシンプルな例のがわかりやすい。
- ・誰と誰がどんな分野でつながっているのかわかるといい。
 - 仕事振るとき参考になる。
- ・書いた用紙を、勉強会中はずっとボードに張っておくとかできたら良かったかも。

<改善点>

- ・マインドマップを知っているか否かではなく、マインドマップを書いたことがあるか否かを聞けばよかった。
- ・マインドマップの説明をもっとすればよかった。実際に簡単なものを書いてみせてもよかったかもしれない。
- ・Ice breaking に費やす時間をあらかじめもっと増やしておくべきだった。
- ・初対面の人同士だったら違う Ice breaking にするべきだった。
- ・休憩の時に、作ったマインドマップを貼るとよかった。
- ・共通点を探す時間などを設けるべきだった。

【大府の小児医療センターについて】（担当：畑下）



<内容>

愛知小児保健医療センターにボランティア体験について

&そこの職員の方へのインタビュー結果

<よかった点>

- ・和やかな雰囲気よかった。楽しそうに（緊張しつつ）出来ていたのでよかった。適所に笑いがあった良かった。
- ・話し方が聞きやすかった。
- ・時間が15分ぴったしだった♪ちょうどよかった。
- ・大府の職員の方にいろいろ聞けて参考になった。
- ・こどもの詩に感動した。
- ・学生側の質問に良く配慮されていた。
- ・パワポが見やすかった、箇条書きで、要点がまとまっていた。わかりやすかった。
- ・インタビュー回答がまとまっていてわかりやすかった。
- ・パワポに書いてあることだけでなく、補足があるのが良かった。
- ・アニメーションが可愛かった。
- ・ボランティアの楽しさが伝わった。

<企画者たちの反省>

- ・内容が薄い、一方的な発表だったかもしれない。
- ・聞いている人の方を向いて発表していなかった。
- ・後につながるものがない。

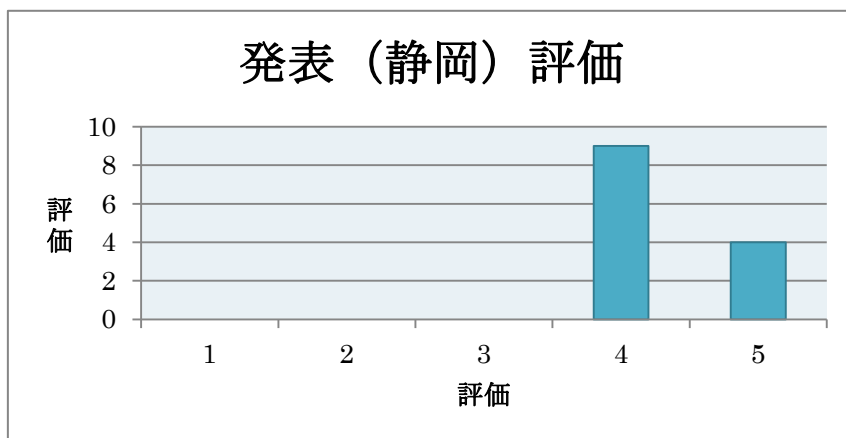
<アンケート内容>(改善点抜粋)

- ・質問する前、後での自分の考え方の変化、反省等、自分自身のことをもう少し加えても良かった。
- ・考えてもらう質問（「どう思いますか」）を入れるといい。
- ・次に別の子がアクションを起こすにはどうしたらよいかがあるとよかった。
- ・聴衆に伝えたいことはどこなのか。（感動した点等）
- ・ボランティア始めたきっかけ、ボランティアの具体的内容、医療センターについてもっと話せたらよかった。
- ・Q&Aの数多い。
- ・もっと写真がほしい。
- ・スライドのアニメーションは無駄な動きがない方がいい。
- ・話がずっと話し手聞き手になっていた。
- ・聞いている人を見て話せるといい。
- ・声が小さい、しゃべるスピードが速い。

<改善点>

- ・まず目的を決めて、そこに到達するのを目標に発表すればよかった。
- ・自分の考え、ボランティア体験談をもっと入れるとよかった。Q&Aの数はもう少し減らしてもよかった？
- ・写真を増やすとよかった。アニメーションは適度に入れる！
- ・発表するときは、聞いている人の方向を向いて、立って発表するのがベスト！
- ・また、声ははっきりとゆっくりと大きく！

【静岡のこども病院】（担当：唐澤、野田）



<内容>

保育士さんと CLS さん@静岡のこども病院へのインタビュー結果

<よかった点>

- ・内容はよかった。
- ・PPT がよかった。
- ・良い経験ができたことが伝わってきた。
- ・質問がよく聞きこめていた。
- ・学生側の質問に良く配慮されていた。
- ・聞きやすく構成がわかりやすかった。
- ・声が2人ともはきはきしていた。
- ・パワポ見やすかったし、可愛かった。時間かけて準備したことが伝わった。
- ・最後に写真が示されて良かった。
- ・保育士さんと CLS さんの意見の比べながら進めて良かった、違いが出ていて面白かった。
- ・保育士さんと CLS さんのはなしが混ざらず、わかりやすかった。（キャラわけ、話す人わけ）
- ・医師としてどうあるべきかを考えられたのがエライ！
- ・2人それぞれが実際に行ってみて感じたことを話せていてよかった。
→発表を見聞きするだけの人と実際に行った人では異なったイメージがあるとわかった。
- ・質問に対応できていた。
- ・時間ちょうど良い。

<企画者たちの反省点>

- ・立ち位置がよくなかった。向く方向がよくなかった。（一部の人が見にくそうだった。唐

澤さんが PPT 操作をしにくそうだった。)

- ・目次や CLS についての説明など、発表内容に足りないところがいくつかあった。
- ・時間がオーバーし (15 分予定が 20 分に)、それに焦ったことで早口になった。
- ・情報を伝えるだけで終わってしまった。次へと活かせる何かがほしかった。

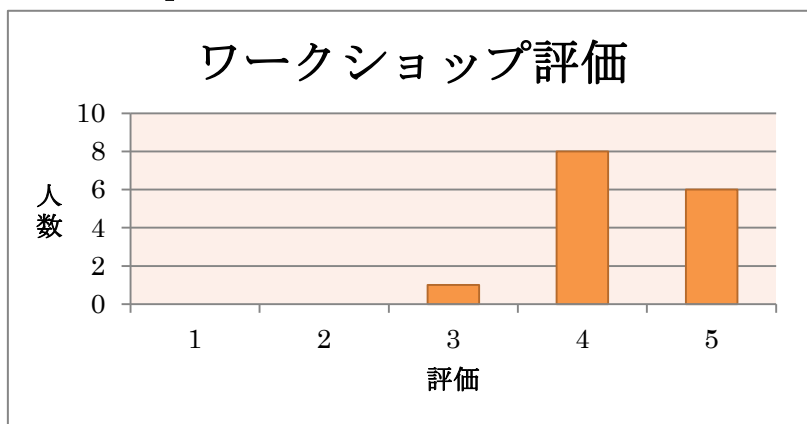
<アンケート内容>(改善点抜粋)

- ・聴衆に伝えたいことはどこなのか。(感動した点等)
- ・質問する前、後での自分の考え方の変化、反省等、自分自身のことをもう少し加えても良かった。
- ・考えてもらう質問(「どう思いますか」)を入れるといい。
- ・写真がもっとあっても良い。
- ・CLS の説明がほしかった。
- ・フォントが入り混じってたのが気になった。(大府の方かも…)
- ・Q & A の数多い。→伝え方でマンネリ化防ぐ。
- ・時間がのびてしまった。→次のスライドに移るまでの時間がちょっと長いかも。
- ・もう少し声大きく、ゆっくりしゃべる方が良いかも。
- ・タイトルラインに字がかぶってたのがもったいなかった。

<改善点>

- ・立ち位置、向く方向など、発表するときの姿勢をもっと気をつける。声は大きくはっきりとゆっくりと。
- ・事前にまだ発表内容を見たことのない人に見てもらって、意見をもとめると、足りない部分を気づくことができる。
- ・もっと自分がどうしようと思った、とかを言った方が良かったかもしれない。
- ・時間短縮するために質問を厳選し、一部の質問を発表するのみにすべきだった。
- ・パワポの字がデザインによって隠れたりしないようにする。

【workshop】（タイムキーパー：野田）



<テーマ>

こどもとの接し方

<したこと>

- ①まず2グループに分かれてもらい、それぞれ子どもと接していて困った状況を出してもらおう。
- ②それぞれ、どの状況について話し合いたいのかを2個ほど決めてもらう。
- ③その後、各自選んだ状況における解決策を話し合い、模造紙にまとめてもらう。
- ④解決策を発表してもらう。

<よかった点>

- ・たくさんの方が来てくれてたくさんの意見がでた。勉強になった。
- ・「演技に対する指摘に悩む」は実際に体験しないとわからないので参考になった。
- ・困ってること、対処法、どちらも新鮮な意見が聞けて良かった。
- ・いろいろな人の意見聞けて良かった。
- ・実用的な意見が出ていた。
 - ←実施に今までかかわったこともある人が多かったからイメージが共有されてた。
 - ⇨逆に実施経験のない1年生はぬいぐるみの苦勞知らないからやりやすかったかも。
- ・説明をパワポにすることにより、今、何をすべきか、などがよくわかった。
- ・発表後に交互に見比べできたのは良かった。
- ・付箋形式、イイネシール形式良かった。
- ・人数増加やみんなの対応などに、ある程度の対応はできた。
- ・内容も自分たちで考える形式だったので良かった。困った点をしばって解決策を考えるのが良かった。

<企画者たちの反省点>

- ・時間が足りなかった。(もっとたくさんの困った状況について話し合いたかったし、またもっと一つの状況について話し合う時間が欲しかった。)
- ・それぞれのグループのファシがあまり機能しておらず、他の方がファシをしていた。(それはそれでよかったという説も・・・)
- ・グループ分けがうまくできていなかった。片方の班に上級生が固まってしまった。
- ・班ごとに進み方の差が多少あった。
- ・困った場面を出してもらった際、例をあげすぎてしまっていた。思っていたのを言われてしまった人もいた。
- ・一つのグループの人数が多すぎた。
- ・模造紙の大きさが各班で違ってしまった。
- ・イネシールが必要だったのかわからない。今回はたったの2グループだったからいらなかったかも。(ただ、コメントを書く時間がなかった時に、お手軽に貼ることができてよかったという説もあり。)
- ・パソコンを持ってくるように頼んだくせに、使ってもらうのを忘れていた。

<アンケート内容>(改善点抜粋)

- ・話し合いの時間短い。
- ・グループの人数が多かった。
- ・「子どもとの接し方」ということについて、「いつ」「どこ」という条件があったほうが話しやすかった。例えば、「実施中」「保育園の園児とかかわるとき」等。

<改善点>

- ・時間配分を工夫する必要があるあった。
- ・グループ分けや時間の取り方など、もっと臨機応変に対応すべきであった。
- ・説明する際の例は少ない方がよい。大体1個あれば十分。
- ・備品を事前にもっと確認すべきであった。

【他にこれからやりたいこと】

- ・ 障碍児の普通学級進学
 - 本人の希望？親のエゴ？
 - 特別支援学級の存在
 - 「普通と同じ教育を受ける」ってなんだろうか
- ・ SCORA と joint (MeSIA でできるかも)
- ・ 小児科医の話
- ・ 子どもの興味あること、どういう遊びが増えてきてるのか
 - プリキュア、仮面ライダー、ポケモン勉強会？！
 - アンケート実施
- ・ 興味の引き方
- ・ 自分が目指す小児医療、医療者
- ・ 事故対応
- ・ (コミュニケーションにおける) 非言語的な部分の注意点
- ・ 小児 BLS (外部講師招きたい！)
- ・ 親御さんが子供さんに対して持つ気持ち
- ・ 子どもの心とは
- ・ 障碍関係
 - 味覚チップ、上下逆転メガネ

【アンケートの全体のアドバイス】

- ・ データや写真やアイデアを先輩や全国の仲間に積極的にもらいにいくといい
- ・ 全体に時間長いといいね

総括

全体として、特に大きな失敗もなく、滞りなく進めていけたと思う。

ただ、今回の勉強会はまだ何も知らない一年生たちが、先輩の力を借りつつ、進めていったものなので、細かな失敗は大量にあった。これらの失敗を活かして、次はよりいいものを作っていきたいと思う。

次の勉強会は名大とマスターズの方の合同勉強会が開かれる予定である。とても充実し、楽しいテーマであるので、とても楽しみだ。

2012年2月20日(月)
なごやぬいぐるみ病院
野田茉友子